

ごあいさつ

平素は、地域総合センターの活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、この数年間、新型コロナウイルスの影響で、学生および教職員も自由な地域活動の制限を余儀なくされました。とくに、学生にとって、行動の「自由」が制限されることは辛いことで、われわれ教職員も大変忸怩たる思いをいたしました。

ただ、そのようななかでも、十分な感染対策を実施しながら、本学は地域活動を継続してまいりました。各ゼミにおいては、長期間にわたり継続している「街中ゼミ」、医療機関への聞き取り調査、尾道その他中四国地域へのフィールドワーク、公共機関や地域企業からの受託研究・創作活動など、できる限りの活動に取り組みました（詳細は、本冊子の「地域学習」の項目をご参照ください）。

また、尾道学入門、文学座談会、教養講座、コンピュータ公開講座、地域プレゼンテーション課題展示会・発表会などの公開講座やエフエム尾道への教員出演においては、オンライン講義、来場者の人数制限やケーブルテレビへの出演、電話出演等に対応してまいりました。

約2年間にわたり、地域との交流や行事が減少してしまったことは残念なことでしたが、危機的状況への対応を通じて、大学として、地域への「知」の還元の方法が多様であることも学ぶことができました。

社会的活動が困難な状況において、上記のような活動が可能であったのも、地域の皆さまのご理解のおかげです。その成果として、このたび、『地域総合センター叢書No.12』を無事刊行することができました。この間、地域活動や叢書の執筆にご協力いただきました皆さまに、あらためてお礼を申し上げます。

さいごに、昨年、尾道の地域文化の発展に多大な貢献をされた稲田全示先生、光原百合先生のお二人が続けて他界されました。本学はもちろん、尾道にとっても大きな損失です。地域総合センター設立当初より、センターの活動をけん引して下さり、精力的に地域活動に取り組まれた稲田先生と光原先生に対し、感謝とともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

令和5年（2023）8月

尾道市立大学地域総合センター長

森本 幾子